

鈴鹿サーキット

2014年の活動内容について

MENU

- 2014年に鈴鹿サーキットで開催されるレースP. 2
- JAF鈴鹿グランプリ28年ぶりの開催P. 6
- さらなる進化を続ける、モビリティテーマパーク鈴鹿サーキットP. 7
- 交通教育センター50周年P. 8

2014年に鈴鹿サーキットで開催されるレース

【F1日本グランプリ】10月3日(金)～5日(日)



Change, Change, Change. をテーマに、これまでのF1日本グランプリの歴史をステップに、新たなステージに向けた取り組みを加速させます。



2013年F1日本グランプリ スタートシーン

「Change」にはF1マシンの革新、ドライバー・チームの変革から生まれるドラマ、鈴鹿サーキットでF1日本グランプリを観戦いただく皆様に次のステージの感動を提供したいという思いが込められています。1987年の初開催以来、26回目となる2014年のF1日本グランプリレースは、2012年、鈴木亜久里、佐藤琢磨以来となる日本人選手3人目の3位表彰台に立った小林可夢偉が復帰します。マシン、エンジンのレギュレーションが大幅に変更となり、これまで培った各チームの経験がリセットされる中、5人のチャンピオン経験者セバスチャン・ベッテル、フェルナンド・アロンソ、キミ・ライコネン、ジェンソン・バトン、ルイス・ハミルトンの戦いがし烈を極めそうです。



2013年F1日本グランプリ 観戦席の様子



S・ベッテル



F・アロンソ



K・ライコネン



J・バトン



L・ハミルトン

小林可夢偉応援席

2コーナーのC席スタンドに、小林可夢偉応援席を設けます。2010年から2012年にかけての大会では、スタンドが一体化し可夢偉選手に大きな声援を送りました。あの感動、あの興奮が2年ぶりに再現されます。



2014年、ケータハムのドライバーとしてF1に参戦する小林可夢偉

©2014 Caterham F1 Team



2012年ドライバーズパレードで応援席のファンに手を振る小林可夢偉

【“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース】7月24日(木)～27日(日)

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレースは1978年の初開催以来37回目の大会を迎えます。毎年夏に開催され、8時間もの長丁場をハイスピードで走り抜ける、世界で最も過酷なバイクレースと言われています。ヨーロッパなどからの強豪チーム、強豪選手の参戦に加え、近年ではアジアからのエントリーも増え、世界が注目するレースです。



2013年“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐
スタートシーン



2013年“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐
レースシーン

【世界ツーリングカー選手権(WTCC)】10月25日(土)・26日(日) 初のフルコース(1周5.807km)で開催！

格闘技レースと呼ばれるほど激しい戦いが展開されるのがWTCC(世界ツーリングカー選手権)です。鈴鹿サーキットで4回目の開催を迎える2014年は、これまでの東コースからフルコース(1周5.807km)に変更して開催。さらにマシンもよりスピードを追求した新型マシンに変更されるため、これまで以上に激しいバトルが繰り広げられることでしょう。

昨年はHondaシビックWTCCがシボレー、BMWと熱戦をくり広げ、シビックのノルベルト・ミケリスがポール・ポジションから第1レースに優勝し、シビックに母国優勝をもたらしファンを沸かせました。今年は新たにシトロエンがWRC(世界ラリー選手権)で9度のチャンピオンに輝いたラリー界のスーパースター、セバスチャン・ローブをドライバーに迎え参戦。昨年マニファクチャラーズタイトルを獲得したHondaと激しい戦いとなることが予想されます。

また国内外の多彩なツーリングカーが参戦するスーパー耐久も併催されます。



2013年WTCCレース1の表彰台
優勝したミケリス(右から2番目)



2013年のHondaシビックの走り



新たにWTCCに参戦する
シトロエン



2013年スーパー耐久
スタートシーン

【鈴鹿1000km】8月30日(土)・31日(日)

今年で43回目を迎える国内で最も古い歴史と伝統を誇るのが鈴鹿1000kmレースです。今年もSUPER GTシリーズの第6戦として開催されます。SUPER GTは2014年、GT500クラスがエンジンも車両も新规定のもとに争われることになりLEXUS、Honda、NISSANともに新型車両を投入。Hondaは2009年以来5年ぶりにNSX Conceptをベースとしたマシンが復活。国内はもとより海外でも活躍したHonda NSX GTの新たな伝説がスタートします。



2013年ポッカサッポロ1000km
スタートシーン



New SUPER GTマシン、Honda NSX-GT
(デモ走行の様子)

【鈴鹿2 & 4レース】 4月12日(土)・13日(日)

国内トップクラスの2輪のJSB1000、4輪のスーパーフォーミュラが同日開催されます。鈴鹿2&4レースは1975年に初開催された長い歴史と伝統を誇るイベントで、これまで数々の名勝負が生まれました。今年はスーパーフォーミュラがエンジン・車体ともに新しくなり、クイック&ライトな新マシンの特性は、これまで以上にスリリングなレースを展開してくれるでしょう。JSB1000もMFJ全日本ロードレース開幕戦として開催されます。



2013年、JSB1000チャンピオンの
中須賀克行の走り



スーパーフォーミュラ ニューマシン

【スーパーフォーミュラ第7戦「第13回JAF鈴鹿グランプリ」】 11月8日(土)・9日(日)



2013年シリーズチャンピオンを獲得
した山本尚貴

全チーム新エンジン・新車両となった新生スーパーフォーミュラは4月の鈴鹿サーキットでその幕を開け、同じ鈴鹿サーキットでシリーズの幕を閉じます。開幕戦から戦いが進むにつれニューマシンは徐々に熟成、進化し、それを操る国内外のトップドライバーたちもそのテクニックに磨きがかかっており、さらに激しい戦いが予想されます。また昨年2レース制で行われたこの最終戦でHondaエンジンの山本尚貴選手が優勝と3位を記録し、大逆転でドライバーズチャンピオンを獲得しました。今年も最後まで接戦が続きそうです。

【全日本ロードレース選手権 最終戦「MFJグランプリ」】 11月1日(土)・2日(日)



2013年MFJグランプリ JSB1000の
バトル

全日本ロードレース最終戦「MFJグランプリ」は、鈴鹿2&4レースで開幕したJSB1000に加え、ST600、J-GP2、J-GP3の全クラスが最後の戦いをくり広げます。昨年の鈴鹿最終戦JSB1000クラスは2レース制で行われ、ランキング2位で乗り込んだヤマハの中須賀克行が連勝。連続2位となったカワサキの柳川明を逆転して劇的なチャンピオン奪取となりました。ST600、J-GP2、J-GP3クラスも同様に最後までタイトル争いが続けられました。今年はそれを超える接戦、激戦が期待されています。

【2014アジアロード選手権】 9月5日(金)～7日(日)



2013年アジアロードレース選手権
SS600スタートシーン

昨年、鈴鹿サーキットで初めて開催されたFIMアジアロードレース選手権を引き続き開催します。スーパースポーツ600cc(SS600)クラスをメインに3つのクラスで戦われ、1996年からアジア各国で開催されています。Honda、ヤマハ、スズキ、カワサキの日本の4メーカーが参戦。日本人選手も毎年多数参戦しており、一昨年は清成龍一がチャンピオンを獲得。昨年はHondaのマレーシア人、アズラン・シャー・カマルザマンとカワサキの藤原克昭が接戦を展開し、アズランがチャンピオンを獲得しました。今年もアジアと日本のトップライダーたちの熱い戦いが見られそうです。

【D1グランプリ】 5月24日(土)・25日(日)



2013年D1グランプリ追走の様子

マシンを横に向けながらドリフト走行でコーナーを豪快に駆け抜けるD1グランプリ。今年も鈴鹿の1、2コーナーを舞台に開催されます。時速200kmを超えるスピードで1コーナーに進入するシーンはまさに圧巻です。さらにSUPER GTに参戦しているトップドライバーなど、バラエティに富んだ選手が参戦するのも大きな魅力となっています。

【ソーラーカーレース】 8月1日(金)・2日(土) 【Ene-1GP】 8月3日(日)



2013年ソーラーカーレース
走行シーン



2013年Ene-1 GP
KV-40走行シーン

ソーラーカーレースは太陽電池で発電したエネルギーのみを動力源にした耐久レースを行うものです。Ene-1GPは手作りマシンを使用、充電式単三電池40本だけで鈴鹿サーキット1周のタイムアタックを3回行い、合計タイムを競う「KV-40チャレンジ」が開催されます。ともに一般・大学生チームに加え高校、高等専門学校チーム、さらにはKV-40チャレンジには中学生チームが参戦するなど、エネルギー技術の未来を担う若者が育っています。

新レース

【アジア ドリーム エンデュランスレース】 6月7日(土)・8日(日)



2013年のCBR250R DreamCup
レースシーン

2012年よりスタートし、全国15サーキットで開催されている「CBR250R DreamCup」。カワサキNinja250/Honda VTR250が主流の2気筒250ccのバイクで争われる「ST250」。低コスト、イコールコンディションで入門ロードレースとして人気がある、この2つのカテゴリーの混走による2時間耐久レースを初開催します。

マシンの性能差が少なく、ライダーの技量が重要となるこのレースは、ST600で争われる鈴鹿4耐に近い本格的な耐久ロードレースのルールを採用。将来のトップライダーを目指す、国内の若手ライダーや、アジア圏のライダーも参戦を予定しています。

【第38回TOYOTA SLカートミーティング 全国大会】 11月15日(土)・16日(日)



SLカートレース(イメージ)

ワンメイクを基本とした車両を使用し、安価に、手軽に楽しめるのがSLカートレースです。1977年からSLカートレース全国大会が開催されており、今年初めて鈴鹿サーキット国際南コースを舞台に開催されます。この大会には全国のカートコースで行われるSLシリーズの上位選手、および海外からの招待選手も参戦します。

初の鈴鹿国際南コースで優勝するのは誰になるか？これまでになく熱い戦いが期待されています。

JAF鈴鹿グランプリ28年ぶりの開催



スーパーフォーミュラ スタートシーン
(イメージ)

2014年11月8日(土)・9日(日)の日程で開催されるスーパーフォーミュラ第7戦を、過去に数々の名勝負を生み出したフォーミュラレース「JAF鈴鹿グランプリ」として開催します。

1973年から当時の最高峰フォーミュラF2000に全日本選手権のタイトルがかけられ、翌1974年に「JAFグランプリ自動車レース」が行われました。当時まだ参加台数が少なかったF2000クラスでしたが、鈴鹿サーキットでのグランプリは多くの参加を集めました。

第1回大会で優勝を飾ったのはマーチ742を駆る高原敬武選手。翌1975年のグランプリを制したのは星野一義選手でした。1977年からは名称が「JAF鈴鹿グランプリ自動車レース」となり、1978年からヨーロッパと同じ既定のF2クラスで争われるようになると海外から強豪チーム・選手が数多く参戦し、さらに激しさを増して行きました。強豪外国勢との戦いが日本人選手、日本チームを大きく成長させました。

そのJAF鈴鹿グランプリが帰ってきます。数々の名勝負を生んだグランプリレースを制することは大きな名誉でもあり、シリーズ最高の戦いが期待されます。

過去のJAF鈴鹿グランプリの様子



1979年JAF鈴鹿グランプリ表彰式
優勝した星野一義(中央)。2位の中嶋悟(左)。3位のケケ・ロズベルグ(右)



1981年中嶋悟の走り



1986年JAF鈴鹿グランプリスタートシーン

過去のJAF鈴鹿グランプリ(JAFグランプリ)の記録

大会数	年度	決勝日	大会名	カテゴリー	優勝者	優勝車名
1	1974	11月2日	JAFグランプリ自動車レース	F2000	高原敬武	マーチ742・BMW
2	1975	11月1日	JAFグランプリレース	F2000	星野一義	マーチ742・BMW
3	1977	11月5日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2000	R・パトレーゼ	シェブロンB42・BMW
4	1978	11月5日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	高橋国光	コジマ008・BMW
5	1979	11月4日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	星野一義	マーチ792・BMW
6	1980	11月3日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	星野一義	マーチ802・BMW
7	1981	11月1日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	中嶋悟	マーチ812・Honda
8	1982	11月7日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	中嶋悟	マーチ822・Honda
9	1983	11月6日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	G・リース	マーチ832・Honda
10	1984	11月4日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	中嶋悟	マーチ842・Honda
11	1985	11月3日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	中嶋悟	マーチ85J・Honda
12	1986	11月2日	JAF鈴鹿グランプリ自動車レース	F2	星野一義	マーチ86J・Honda
13	2014	11月9日	2014スーパーフォーミュラ第7戦 第13回JAF鈴鹿グランプリ	スーパー フォーミュラ		

さらなる進化を続ける、モビリティテーマパーク 鈴鹿サーキット

【3月1日(土)】

家族の冒険エリア New「アドベンチャーヴィレッジ」オープン！

できた！が、
いっぱい。



New「アドベンチャーヴィレッジ」



新アトラクション「アドベンチャードライブ」

New「アドベンチャーヴィレッジ」は3月1日(土)、“家族で冒険を楽しめるエリア”へと大きく生まれ変わってオープンしました。総面積46,000㎡のエリア内には「秘密が隠された古代遺跡の世界」が広がり、海・空・森・地をイメージした6つのアトラクションに乗りながら、その秘密を解き明かす冒険にチャレンジできます。

New「アドベンチャーヴィレッジ」に登場する新アトラクション「アドベンチャードライブ」の最大の特徴は、搭乗したメンバーの叫び声でコースターが加速する日本初の仕掛け。出した声の大きさが加速度が変わるため、家族や仲間と協力して大きな声を出しゴールを目指すことで『できた！』をより体感いただけます。

新アトラクション「アドベンチャードライブ」概要

- 料金 : 500円(モトピアパスポート利用可)
- 通常速度 : 5~10km/h
- 最高速度 : 36km/h
- 最高勾配 : 45度
- 全長 : 約480m
- 最大高さ : 約10m
- 乗車時間 : 約3分30秒
- 乗車定員 : 4名
- 利用条件 : 身長100cm以上の小学1年生～
- ※身長100cm以上の未就学児は中学生以上の付き添いで利用可

【7月1日(火)】

「鈴鹿サーキットホテル ノース館」リニューアル

モータースポーツの世界に包まれる新コンセプトルームをオープン！



鈴鹿サーキットホテル ノース館が、2014年7月1日(火)、モータースポーツの世界に包まれる「コンセプトルーム」となってリニューアルオープンいたします。客室にしながら、モータースポーツを感じる家具に囲まれた上質な空間へと生まれ変わります。

- オープン日 : 2014年7月1日(火)
- 客室数 : 49室
- お部屋の広さ : 28㎡
- ベッドサイズ : W970mm×L1,950mm/4台
- 最大定員 : 5名 ※1室5名様利用の場合はエキストラベッド対応
- ※全室禁煙ルームとなります。

交通教育センター50周年

1964年、白バイ隊員のための高速安全運転講習に始まった鈴鹿サーキットの交通教育センターは、2014年に50周年を迎えます。1963年に日本初の高速道路、名神高速道路(栗東IC～尼崎IC)が開通し、誰もが高速走行の経験がない中、鈴鹿サーキットは唯一高速走行体験ができる交通教育機関としてスタートしました。まさに前例のない、ゼロからスタートしたが、現在の白バイ隊の技術や自動車学校のシステムの元を構築。日本の交通安全教育の先駆者として様々な改良、発展を重ね、これまでに110万人の方に体験いただくことができました。



交通教育センター全景



講習プログラムの様子